

地方議会にできて 国会でできないはずがない！



2010年2月14日 朝日新聞記事抜粋

2007年、若手議員8名で政務活動費を100%透明化する条例改正案を提案。
3年に渡る党会派を越えた厳しい議論の末、透明化に踏み切りました。

県議の政務調査費領収書添付
1円から義務化
県議会 可決なら新年度実施
県議の政務調査費領収書添付は、議員の活動の透明性を高めるという目的で、2007年に導入された。当初は100%の透明化を目指したが、議員の負担が大きいという理由で、100%の透明化は実現できなかった。しかし、議員の負担を軽減するため、1円から義務化された。これは、議員の活動の透明性を高めるという目的で、2007年に導入された。当初は100%の透明化を目指したが、議員の負担が大きいという理由で、100%の透明化は実現できなかった。しかし、議員の負担を軽減するため、1円から義務化された。

裏金問題を機に、国会は大いに揺れました。いよいよ国会でも本格的な改革のメスが入ることを期待しましたが、結果は改革と呼べるには程遠い内容でした。パーティー券購入の公開基準を「10万円」から「5万円」に引き下げても、野田元総理の指摘したとおり「**小さなブラックボックス**」に変わるだけで、透明化は実現できません。

このまま改革がうやむやなままお茶を濁らせて終わるのかと思うと、**かつて党派を超えた厳しい議論の末、政治資金の「透明化」を実現してきた地方議員**としては、本当に歯がゆい思いです。国会も地方議会も仕事は同じ。透明化ができないはずがありません。

それどころか、この程度の改正ですら、麻生副総理が不満を露わにしたという報道で明かなように、国会議員に根付く「**特権があって当然**」という意識を払拭できない限り、真の改革は不可能です。

カネのかからない政治は その気になれば可能

県議会代表者会議「冠婚葬祭虚礼廃止の申し合わせ」について

平成23年6月7日開催された代表者会議において、冠婚葬祭の虚礼廃止について次のとおり申し合わせがなされました。

- 群馬県議会は、平成2年6月14日の「虚礼廃止に関する決議」の趣旨を尊重し、虚礼を廃して公正で廉潔な議員活動を推進するため、弔電は白濁する。
- また、答礼として白筆で出す書中見舞い、年賀状以外は公職選挙法上禁止されていることを確認しました。

群馬県議会 HP より

政務活動費の透明化の翌年、弔電の白濁を議会全体で取り決めました。新聞のお悔やみ欄を見て弔電を送ることは長年の慣行でしたが、金銭的な負担も大きいことから、**政治資金の透明化を契機に「カネのかかる活動をみんなで止めよう」という機運**が生まれた事例と言えます。

「政治にはカネがかかる」という言説を良く聞きますが、**不透明に使える政治資金の元手を絶てば、否が応でも「カネのかからないルールをみんな作ろう」という機運**が生まれるのです。

裏金問題に見る国と地方の改革への温度差 カギは「透明化」と「特権意識の払拭」

副知事人事を巡り、 健全な二代表制が機能

経産省から交流人事で派遣されていた宇留賀副知事について、**経産省を退職させて副知事を続投させるという異例の措置**に踏み切ろうとしたことに端を発し、二代表制の意義が問われる議会となりました。

言わば「お気に入り」の続投のために、これまでの慣行ルールを否定する知事の姿勢に各会派が問題視し、舞台は緊急の全員協議会に（記事）。知事からは議会側の懸念を踏まえた妥協案が示され、歩み寄りにより決着の運びとなりました。

山本知事の行動力や発信力を県政に活かすハンドリングをしつつ、今人事のように県政の私物化や暴走に繋がりがかねない行為に至ったとき、ブレーキをかける使命を、議会が一定果たすことができたと考えます。

副知事再任でも1年限り
全員協議会 知事、さらなる妥協案
出身の経産省を正式に退職した宇留賀副知事（43）の副知事再任案に関する協議会の全員協議会が12日開かれ、山本知事は、宇留賀氏を再任させても1年限りで退任させる意向を表明した。
再任案を巡り、知事が県議会に正式に説明するのは初めて。知事は冒頭、「県議会に対するおごりや慢心があった。真摯に反省したい」と陳謝し、宇留賀氏の企業誘致などの実績を説明した。その上で、「1年の任期で再任を認めていただけではないか。その間、政府からの次の副知事も、いい人を見つけたらいいように努力する」と頼み込んだ。
知事が公の場で譲歩を見せたことで、今後の焦点は各会派の態度決定になる。

〇月〇日上毛新聞記事抜粋



知事と覚書を交わす主要4会派

まつりごと せい
“**政とは正なり**”
みんしん な た
“**民信細くば正なり**”

透明で正しく、国民から信頼されることが政治の要諦であるという原点に立ち返ることが今こそ求められています。



孔子